

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊明市児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 2日		～ 令和 6年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 2日		～ 令和 6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間はわかりやすい環境になっており、こどもの特性に応じた情報伝達や配慮を行っている。	物理的構造化をするのみでなく、発達や次のステップ、活動に合わせた環境設定を心掛けている。	わかりやすい環境を維持し、清潔で、心地よく過ごせる環境を保ち、活動が充実できるよう遊具や備品等を整備していく。
2	こどものことを理解し、こどもと保護者のニーズや課題にそった児童発達支援計画を作成し、関わる職員が協力して支援を実施している。	個人懇談会の定期実施と、専門職の評価も踏まえた児童発達支援計画を作成している。また、こどもの支援に関わる職員が情報を共有し共通理解のもとで支援を実施している。	児童発達支援ガイドラインに沿って、児童発達支援計画の様式を見直し、わかりやすい計画書の作成に心がけていきたい。
3	保護者への情報提供や交流、研修等の機会を確保している。	通信やSNSを活用し情報提供に努めている。また、保護者会やサロンの開催により研修の機会を確保し、保護者同士が交流できる機会を設けている。	活動概要や行事等の情報発信に努めるとともに、保護者同士が交流できる新たな場所を検討・実施していきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の中で他の子どもと交流する機会が少ない。	共生交流プラザに事業所があるため、施設内の子ども広場や、芝生広場等の活用を行っているが、施設外へ出る機会を十分に確保することができていない。	他園への訪問等により交流の機会を確保することで地域の中で他の子どもと活動する機会を増やしていく。
2	支援プログラムの充実と周知。	事業所内でのプログラムが多く、事業所の外での活動が十分に確保できていない。また、プログラムの内容についても周知する機会が少ない。	事業所内外の活動プログラムを充実することで療育内容を充実していきたい。また、プログラムの内容について保護者等へ周知する機会を増やしていく必要がある。
3	家族支援プログラムの機会の提供。	保護者会やサロンの開催を行っているが、家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を行うことはできていない。	家族支援プログラムやきょうだい児支援について職員が理解を深めることで新たな機会の提供に向けて考えていく。